

教材名	折れたタワー	教科書	日本文教出版	学年	5年
内容項目	相互理解、寛容	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。			

内容項目のとらえ方
(子どもの実態を踏まえ)

他の人たちと関わりの中で、トラブルが生じたとき、自分の正しさを主張し続け仲直りをしない子、あるいは折りあいをつけようとする子といろいろである。お互いに歩み寄ってよりよい関係をめざそうとすることの大切さに気づかせたい。

授業の展開

子どもたちの活動	指導上の留意点
<p>1. 友だちとトラブルがあった際に、自分はふつうどうするのかを考え、発表する。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲直りしようと努力する。 ・カッとなってケンカになることが多い。 ・ケンカにはならないけど、無視する。 ・相手が謝ったら許す。 ・とりあえず思ったことは言う。 	<p>今までのことを思い出して、ケースバイケースではあるが、ふつう自分がどういう行動をする傾向があるか考えさせる。</p>
<p>2. 教材「折れたタワー」を読んで話しあう。</p> <p>(1) あやまってのりおが許してくれそうになかったときのひろしの心の声を考えて発表する。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほんとうにごめん。 ・どうすればいいんだろう・・・ ・マスクぐらいでわあわあ言うなよ。 ・うるせー！ 	<p>似たような場面に自分を置いてみて、「自分なら」という想定でひろしやのりおの心の声を考えさせる。</p>
<p>(2) ひろしの作ったタワーを落として折ってしまったときののりおの心の声を考え発表する。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまった。ひろし怒るだろうな。 ・どうしよう、何て言おうか・・・ ・謝らなくては・・・。 ・修理できるかな・・・。 	<p>教科書では「わざと落としたんじゃないだろ。しかたないさ。」とひろしは言うのだが、いろいろな反応もありうることを伝える。</p>
<p>(3) あなたがひろしなら、のりおに何と言いますか。</p>	<p>子どもたちが意見を言う中で、歩み寄ろうとする意見を聞いて、「許さない」という気持ちを持った子が揺さぶられる機会になれば。</p>
	<p>オープンエンドで終わる。</p>